

北の スポボラ

スポーツをする楽しみ
見る楽しみ
支える楽しみ

発行 / 認定NPO法人 ランナーズサポート北海道

カップ・ボトルを持ちレースを走る ホノルルマラソン、湘南国際マラソン



パイプから流れる水を持参のボトルやカップで汲む
ホノルルマラソンのランナー

ランナーはカップ、またはウォーターボトルを持参して走りましょう。2022年12月11日に開催された米ハワイ・ホノルルマラソンは、コース上に設けられたエイドステーションのうち半数以上が、ランナーが自分で用意したカップやボトルで水を汲んで飲むセルフ給水のスタイルです。

セルフ給水のエイドステーションでは、水源から延びたホースが、コースサイドの柵に括り付けたパイプにつけられ、そこから水が流れっ放しになっていました。ランナーは足を止めて持参のボトルやカップで水を汲んで飲み、顔や頭に水を被ってまた走り出します。

大会を主催するホノルルマラソン協会はこれを、大会が謳う「サステナビリティ(持続可能性)」のテーマの一つの環境への取り組み、リサイクルと紙コップなどのゴミの減量の施策と説明しています。

ホノルルマラソンの1週間前、神奈川県では第17回湘南国際マラソンはすべてのエイドで紙コップやペットボトルでの給水をやめた「マイボトルマラソン」として開催。ホノルルよりもっと徹底した姿勢でゴミのないサステナブルな大会を目指しました。大規模マラソンで始まったこうした取り組みは、広がりを見せていくのでしょうか。(2面に続く)

目次

- ファイターズボランティア 新たな舞台 ③
- 北海道マラソンは8月27日開催 ④
- 2023年の道内ランニング大会 ④